

○図書館リテラシー教育の充実（明治大学）

- 『「教育の場」としての図書館の積極的活用』として2007年度、特色GPに採択
- 学部間共通総合講座「図書館活用法」
 - ・半期2単位の授業
 - ・482名が履修（2008年度）
 - ・教員8名，図書館職員28名が講義担当
- 「図書館活用法」授業評価活動
 - ・プログラム評価技法の導入
 - ・評価活動に基づくカリキュラム改善

- ゼミツアーの実施
 - ・少人数授業の1コマで図書館活用法を説明
 - ・4,459名が参加（2008年度，3地区合計）
- 出前講義
- 各種講習会の実施
- 新入生オリエンテーション
- その他
 - *リテラシー教育効果測定の困難さ
 - *リテラシー教育スキル養成の必要性

（第29回学術情報基盤作業部会発表資料より）

○図書館として組織的にシラバスを読む（早稲田大学）

シラバスが義務付けられてから相当時間が経っておりますが、図書館として組織的にシラバスを読み込むという作業を業務としていないことを反省して、今年の課題としては、皆でとにかくシラバスを読むことを始めています。つまり、そうしないと、ある学問に関する体系的な知識を持っていて、図書館のサービスの現場に持ってきたとしても、サービスとして機能するのかどうかは疑問を持っています。

（第32回学術情報基盤作業部会議事録より）